

社会福祉法人天上会 広報誌  
**2017年 秋号**

# ひろば



# 新施設 新樹学園完成

私たちの想いがついに形になり、  
星塚敬愛園の敷地の一画で新しい生活が始まりました。



建物全景



玄関は3つの居住棟それぞれに設置



光が差し込む多目的ホール



居室は利用者さん一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせて家具を選んでいます



5箇所の食堂にてグループごとに食事



食堂に隣接したキッチン

## Floor Map



リビングから出入りできるウッドデッキ



個浴を意識した浴室は全部で6ヶ所



衛生的な洗面所



広々と使いやすいトイレ

## 「楽しみ」がもっともっと広がる家

障害者支援施設 新樹学園 施設長 倉 千砂子

### 居住空間に対する私たちの想い

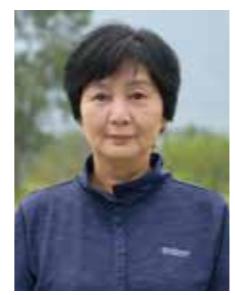
3年前の今頃、みんながもっと自立して、楽しく安心して暮らせるようにするにはといった内容を職員で検討する機会があった。日々の暮らしをどんなふうに送って欲しいか意見を挙げていく中で、「今後も高齢化は進んでいくものの、全員が高齢という訳ではない」「他者との関係でストレスを感じる人もいれば、寂しかり屋さんもいる」「お風呂とトイレはゆっくり使って欲しい」「自分の部屋として楽しんで欲しい」「食事を家庭的な雰囲気でとって欲しい」「可能性を引き出せるようにならう」と、将来の夢や希望を出し合ったことが思い出された。

### 「楽しみ」を生みだすために

引っ越して数日たった頃、「私は、今までずっとおうちに帰りたいと言っていたけど、もう言わないよ。その理由はここが私

の家になったから」と女性の方が話してくださいました。あの時の職員の想いを取り組んでいける家になって

いるか、これからこの家をどのように活かしていくかは私たち職員にかかる。みんなが個々自分の暮らしを楽しみ、その楽しみがもっともっと広がっていくように絶えず努力していきたいと思う。



## 互いの視点から創る「生活」の場

株式会社莫設計同人 代表取締役 松村 正希

### 豊かな「命」が住まう場所

「新樹学園」に暮らす人々は、何物にも代え難い価値を持っている。

私は、この人たちが「生きる」とはどのようなことを自分に問いかけている。そのひとつは、「命を守る」ことである。誰もが持っているたったひとつの裸の命。さらに、その人たちの人権を守ることである。安心して暮らしていく場である。そのようなところでは、死を迎えるまで社会の役にたち自立して豊かに発達していくことができ、元気が出て生きる意欲が湧いてくる。

ここで暮らす人々は、いろいろな要

因で生活に混乱が生じていると思われる。この生活の「生」は、生命の維持に代表される食べることや排泄、睡眠、遊ぶ、買い物に行く、お風呂に入る…等々であり、「活」は、仕事をしたり、何らか社会と関わり、役割があり、いろいろな人と話してコミュニケーションをとる…等々の日々の活動である。

ひとは、「食」が細くなってくると、生理的欲求がなくなってくる。その欲求がなくなると、人生にあきらめ、生きる意欲がなくなる。そして、気力がなくなり、生命力が萎んでくる。この生理的欲求の喪失を如何に防ぐかも大切である。そして、ここに居ると安心であり、居ても大丈夫だ。落ち着

く。ここに居るときの自分が本当の自分であり、あるがままの自分を出せる。晴々している。自然で自由な感じがするし自分らしく振る舞うことができる。よく眠れる。食事が美味しいと、ここでは自然とその場にふさわしく自由に行動し、表現することができる。

このような住まいを職員の意見や提案を取り入れて実現に向けて歩んでいった。

### Profile

1967年 3月卒 京都市立伏見工業高等学校  
1998~2000年 京都府立大学人間環境学部 研究生  
2001~2006年 国立福井大学大学院工学研究科博士後期課程システム設計工学専攻  
1983年8月 莫設計同人設立 代表となる。  
1988年2月 上記を株式会社莫設計同人に改組。  
代表取締役として現在に至る。

# 新樹学園移転に伴い 思うこと

昭和63年4月からここ肝付町で「共に生き共に伸び行く」生活を営んできた新樹学園入所部。

29年の時を経て、利用者の方々の生活形態の変化に伴い、生活のしやすい施設を建設し移転する運びとなりました。

本部機能は従来通り肝付町で執り行っています。

入所棟跡を地域生活の拠点の場として活用していく、カイロス・照葉の森・拓の3事業所がその思いを語りました。



障害福祉サービス事業所 カイロス

施設長

松元輝徳

共同生活援助事業所 照葉の森

次長

本田友宏

相談支援事業所 拓(ひらく)

施設長

平野正毅

地域の皆様に暖かく受入れていただきこの地に少しずつ根を張ってきた入所施設がいざ地区外へ移転となると、30年間の歴史の重さを感じ寂しい気持ちになります。今度は新たな地で新たな歴史に向かい、「新樹」の木の根を下ろしゆくつと育んでいけばいいかと思います。

現在、カイロスは就労事業を中心に毎日平均60名の方々が利用され、日々、個々の能力を最大限に生かせるような作業提供を行っています。また、これまで新樹学園の通所事業として機能してきました「わたぼうし」は平成29年10月1日より生活介護事業所「わたぼうし」定員20名として開所します。これまで同様、個々の体力に応じた支援を行っていきたいと思います。

ここに残る事業所として、これまで同様地域福祉の核となるように今後も取り組んでいきたいと思います。

平成5年に1つのグループホーム運営を開始し、現在は6つのグループホームで利用者の皆様が共同生活を営んでおられます。私たちのスローガン「街であたりまえに暮らす」を念頭に利用者の皆様の日常生活支援に努めています。

高齢化が足早に進む中、高齢者向け施設の需要は確実に高まり続けると予想しています。実際に当グループホームでも通院支援が増えています。そのような中、重度障害者をグループホームにという傾向が見られますが、区分判定の統一化を含め地域から福祉を支えています。私が担当している相談支援事業所「拓」も敷地内での引越しとなります。

当初は知的障害者更生施設として再始動した天主会も今では6事業所で多方面から福祉を支えています。私が担当している相談支援事業所「拓」も敷地内での引越しとなります。

29年間分の入所者様との思い出の詰まった居室跡に腰を据え、暮らしと生きがいをともに創る地域共生社会を目指し、本人に寄り添い、意思決定を支援していきたいと思います。



障害者支援施設 新樹学園

川原誠さん

アピールポイント：笑顔  
仕事に欠かせないもの：おもいやり  
リフレッシュ方法：映画鑑賞・ジョギング  
好きな言葉：ありがとうございます



障害者支援施設 新樹学園

後迫優子さん

アピールポイント：体力  
仕事に欠かせないもの：思いやり・笑顔  
リフレッシュ方法：ショッピング  
好きな言葉：ありがとうございます



障害福祉サービス事業所 カイロス / 共同生活援助事業所 照葉の森

## 平成29年度 新任職員紹介

4月より新たに当法人に入職した12名の職員をご紹介します。  
園内や地域行事等で見かけた際は、お気軽に声がけください。  
法人理念である「共に生きる」を心に、利用者支援を行っていきます。



障害福祉サービス事業所 カイロス

植村優樹さん

アピールポイント：優しさ  
仕事に欠かせないもの：伝達力  
リフレッシュ方法：友人と会話  
好きな言葉：きずな



共同生活援助事業所 照葉の森

村田千和子さん

アピールポイント：明るく社交的  
仕事に欠かせないもの：思いやりのある愛情  
リフレッシュ方法：温泉に行く・海を見に行く  
好きな言葉：絆



共同生活援助事業所 照葉の森

山下伊津子さん

アピールポイント：さまざまな職種での経験  
仕事に欠かせないもの：真面目さ・几帳面さ  
リフレッシュ方法：アウトドア  
好きな言葉：一期一会



共同生活援助事業所 照葉の森

川上裕子さん

アピールポイント：まじめなどころ  
仕事に欠かせないもの：笑顔・心の余裕  
リフレッシュ方法：スポーツ・会話  
好きな言葉：スマイル



おおすみ障害者就業・生活支援センター

小手川美穂さん

アピールポイント：笑顔と愛嬌  
仕事に欠かせないもの：健康である事  
リフレッシュ方法：友人とのおしゃべり  
好きな言葉：笑う門には福来たる



# スポーツクラブ

毎年6月から3月の第1・第2木曜日の午後に肝付町体育館にて約10名の2グループでクラブを実施しています。

「挨拶・言葉使い・作業」を頑張り、みんなで楽しいクラブ活動を作ろう!を目標として取り組んでいます。

## 楽しみながら体を動かす。

平成23年にスポーツクラブが始まりました。当初は新樹学園入所部とカイロスの合同クラブでしたが現在はカイロス・スポーツクラブとして23名の通所利用者がグループA・Bに分かれ活動されています。ボールハンドリングを中心にバスケットボール・バトミントン・レクレーションで簡単ボーリングやサッカーなども行っています。



各種目により競技経験のある職員が指導。  
スポーツを楽しむことで、気持ちをリフレッシュする良い機会にもなっています。



ボールハンドリングではボールをコントロールし仲間に繋げ、バスケットボールでは高い位置のバスケットリングにシュートし、バトミントンではラケットを使ってペアの相手にシャトルを返してラリーを数えて、自身の体を上手に動かし、上手くいったときは喜びを大きく表現し、上手くいかないときは次は少し変えてみようと考えながら、ひとつのプレーに一喜一憂しながら活動しております。

クラブ後は「シュートが10本も入ったよ」「疲れたけど楽しかった」「ラリーが沢山続いて数え切れなくなっちゃった(笑)」など、スタッフに笑顔で報告してくださいます。他のクラブのように作品はありませんが、活動後の皆さんの表情は輝いていますよ。



## 医療=元気 / 芸術=感動 コミュニケーション=仲間 / 教育=成長

スポーツは医療であり、芸術であり、コミュニケーションであり、教育であるという言葉があります。それに近い感じで、担当スタッフが考えるスポーツの重要なポイントが「元気・感動・仲間・成長」です。皆さんで心を育てあいながら一緒に楽しみましょう。

## 編集後記

早いもので社会福祉法人天上会に入職し、2年という月日が過ぎました。あつという間の2年であり、中身の濃い2年だったと思います。さらに福祉に携わり14年…。たくさんの人たちと出会い、支えられ、まさに「感謝」の一言に尽きる14年でした。

今まさに転換期を迎えた社会福祉法人天上会。その機会にめぐり合えたことも何かのご縁だという事なのでしょう。「明るい笑顔」をモットーに利用者様と一緒に過ごす日々の中、未熟な自分はつい

い笑顔を忘れてしまいます。

しかし、そんな時ある利用者様が手を繋いでくださいました。私の周りにたくさんの笑顔が溢れている事をその優しい手に気付かされた瞬間でした。

私が笑顔を忘れたときに笑顔をくれる仲間がいて、優しく元気に接して下さる利用者の皆様がいる。些細な幸せなのかもしれません、自分を振り返りながら幸せを提供できる天上会の一員として精一杯楽しんで「生き」たいですね。

(わたぼうし 造倉 直樹)